

(前頁からのつづき)

長らに再会を約し、惜別した次第でした。

旅程第1・第2・第3日記事は他のメンバーに委ねることとして、つねにIBC交流の旗振り役を務めてきた私としての感想をまとめてみたいと思います。

まず、想起することは1990年11月の初訪台のときのこと。ウエストとは1982年7月からIBC締結を結び親しく交流を重ねてきており、台北ダウタウンクラブともIBC関係にあった鍾路クラブの紹介により、蔡徳富会長はじめ通訳をしてくれたAKIさんや羅・闕・鍾・李さんらと懇談し、IBC締結の可能性を探ったのは正に結婚に先立つお見合いでした。漢字で書いて派手な交際はお互いに避けたいと申し入れたものの「派手」という意味を説明するのに一苦労したことが今尚懐かしい思い出となっています。

その翌年2月・3月のウエストへの来訪を経て、1991年6月の下田における日本区大会時にIBC締結。つづく1991年9月の台南高雄のアジア大会時に鍾路を交えてのトライアングルが成立したのです。

1992年6月には私の日本区理事就任式に両クラブが来日。1993年からはじめた隔年度のトライアングルキャンプや周年記念会に訪台するなど、地味作も確実に親交を深めて今日に至っています。

台北ダウタウンクラブについていつも思うことがあります。即ち、

(1) 行事の実行に当たっては実にうまく組織的な動き方をされます。メネットも含めた各自の役割が明確で、誠実かつ精力的な行動ができること。そして、メンの活動に花を添えるようにメネット全員が強力にバックアップされること。

(2) 行事ごとに理念を設定して行動されること。つまり今回もワイズメンが「イエスキリストの教えに基づく世界的友好団体」であることから真理大学を会場に選び、「愛・平和・友情」をテーマとして掲げ、永遠にその誓いを桜木の植樹によって表現されたことは、これまでの一連の活動対象として来られた地域と国際、地域とタウンシップまた、対人間関係だけでなく山や海など自然に対する活動の拡がりを求められていること。

(3) 事業のファンド創りは常に工夫を凝らし、これという節目の行事にはメンバーがワイズ歴のレベルを配慮した個人的寄付にも応えていること。

以上のようなことが台北ダウタウンクラブの情の厚い結束力を生み出しているのではないかと思います。

今回の京都ウエストからの訪台には現・次期会長をはじめ次代を背負って下さるメンバーが参加していただいております。それぞれに国際交流の素晴らしさを改めて体感されたことと思います。私たちの京都ウエストも今回の恵まれた機会を契機として、台北ダウタウンクラブに負けないしっかりした理念と誇りを持つクラブ創りを目指して参りましょう。

終わりにのぞみ、台北ダウタウンクラブへの祝辞を通して提言したことがあります。それは私たちIBCクラブの時代変化に伴う次世代クラブ活動に適した交流プログラムを再検討することです。これについてはIBCナイトの時にAKIさんが壇上から披露してくれていました。最初の再検討の機会は今年8月のソウルでのアジア大会の折になるかと予測しています。

いずれにしても、永年にわたる台北ダウタウンクラブとの「水魚の交わり」をさらに深めていきたいと感じさせてくれた意義ある創立記念行事であったことを報告してこの稿を閉じることと致します。

映画「石井のおとうさんありがとう」

上映会を実施しました。

4月3日(日) 同志社大学ハーディーホール

連絡主事 辻中 康宏

明治時代、子どものための法律も制度もなかった時に孤児救済に生涯をささげた石井十次の生涯を取り上げた映画「石井のおとうさんありがとう」の上映会を4月3日(日)に京都YMCA国際福祉専門学校と同志社大学の共催(会場:同志社大学のハーディーホール)でおこないました。

石井十次は、貧しい母親から男児一人を預かったことをきっかけにして、児童福祉・教育に専心する決意をし、孤児院を創設しました。福祉の言葉さえない時代に孤児や被災児の為に全速力で走り続けた石井十次の働きは、以後の日本の児童福祉・教育の発展に大きな業績を残しています。

必死で寄付金を集めるものの度重なる資金難、村人からの偏見・差別、そして濃尾地震による被災児の93名をはじめ東北地方一帯の冷害による被災児救済により、施設の児童数は1200名にも達しました。石井十次のその愛のエネルギーに驚嘆するとともに、孤児のために働く石井十次を支え続けてた妻の早過ぎる死などのシーンに私は思いっきり涙を流しました。孤児の父として次々と襲ってくる困難を乗り越え、一人の餓死者もなく育て上げられました。しかし、志半ばの48歳の若さでこの世を離れ、神様のもとに旅立たれました。

当日は、午後と夕方の2回の上映で、午後の部では同志社大学神学部の本井教授の講演があり、石井十次の人となりについて判りやすく話がありました。入場者は、午後と夕方あわせて400名で見た多くの人に感動を与えました。当日はスポーツ保育研究科の人たちが応援に駆けつけ受付等のお手伝いしてくれました。石井十次は、クリスチャンでもあり日本の先駆的的社会事業家として児童福祉分野では必ず取り上げられる人物です。同志社を作った新島襄や、救世軍の山室軍平、企業家として石井を支えた大原孫三郎などの人々に影響を与えた人物です。

今後も全国各地でこの映画の上映が計画されていますので、ぜひご覧いただければと思います。

4月役員会例会・総会報告

4月7日(木) 今出川YMCA

ブリテン委員長 河合久美子



4月7日(木) 今出川YMCAにて、役員会例会・総会が開催されました。定刻を過ぎてメンバーの集まりはいまひとつで、少し遅れて開始。年度替りの時期的なものなのか、出席メンバーは15名にて、前月に引き続き、参加人数の少なさが少々気になりました。

まずは中村書記の司会にて役員会開始、報告事項では、各担当者より、5月の各種行事の件、西日本区大会申込状況の件、EMC「遊ば会」のお誘い、地域奉仕の各種資金の状況などの報告があり、その後、協議事項では、リトセン夜桜フェスタや4月Yサ例会の詳細、IBC台湾3クラブ合同記念例会の段取り、ウエスト25周年記念誌の進捗状況につき、活発な意見交換がなされました。特に、来る4月30日~5月2日のIBC台湾訪問に関しては、現地にて日本らしい踊りのパフォーマンスを披露する必要があるとのことで、どのよ

うに準備するかにつき、森田交流委員長を中心に検討がなされました。役員会議案については、後掲の通り、各種費用や予算の拠出を中心とした議題につき、スムーズに議事進行し、全てについて承認がなされました。

続いて、立山会長の議長にて総会が行われました。中原次期会長より、次期事業委員長が発表され、その他の配属についても説明がなされ、承認。また、例会場変更についての議案に関して、会場の雰囲気や例会後の懇親会、駐車場の問題などを考慮した結果、リーガロイヤルホテルに変更したい旨の説明がなされ、これも承認されました。次期は、新しい例会場にて、また新たな気分で例会が楽しめそうで、大いに期待が持たれます。また、議案以外に、森田ワイズより、委員会の引継書を作成すること、個人の会員名簿を整備することについてのご意見、山下書記より、新しいファンド商品の提案などがありました。

最後に、立山会長より、例会の時間厳守、欠席時の連絡につき気を配るようにとのお話がありました。特に、本日は、次期に関する議題の総会も併せて開催される、重要な例会でもあった訳で、そのあたりの自覚と義務につき、メンバー全員が再認識することが必要だと改めて感じました。

(役員会・総会議案報告は最終ページに掲載)

出席者：メン15名

立山・中原・中村・山下・野々口・岩本・大西・桂・河合・寺井・辻中・野田・牧野・森田・安平

YYフォーラム&夜桜フェスタ報告

4月17日(日) YMCA リトリートセンター
EMC 委員長・YMCA 夜桜フェスタ実行委員長 桂 厚子



YMCA リトリートセンターにて、夜桜フェスタが4月17日に開催されました。

本当にお天気に恵まれ暑いぐらいのフェスタ日和でした。ただ川沿いの染井吉野の桜は満開でしたが、山桜は朝に1輪屋から3,4,5輪と咲いてくれただけで、ライトアップには間に合わなかったのが残念でした。

しかし今年は、わいわいフォーラム、会員理解の為の集会もこの夜桜フェスタに、合わせて頂いたおかげで、遠方のワイズメンズクラブの中部、びわこ部のメンバーがたくさん参加いただき、250人からのにぎやかな集まりとなりました。京都、滋賀のYMCA 理事長もご参加いただきました。

5時には参加者には花見弁当を引き換えてもらって、京都部の各ワイズメンズクラブの屋台を巡っていただきました。

焼きそば、生ハムサラダ、どて焼き、中華スープ、焼き芋、おでん、フランクフルト、フルーツポンチ、花見団子にコーヒと、まるでフルコースに廻れる配置で、飲み物アルコールもいろいろ用意していただきました。

メタセコイヤ広場にはフォトコンテストが行われ、各ワイズメンズクラブが、工夫した屋台の前にはクラブ名と食べ物名が掲げられ、ステージでは2回、トップクラブからなつかしのフォークソング、パレスクラブからは珍しいバンジョウを弾いていただきました。アンコールつづきでおおいに盛り上がりましたが、日が落ちると、山里の春はやはり寒くなり早めの切り上げとしました。

半日をずっとリトセンで過ごし、ここに関わる人の動きを見せていただくことになり、なんと善意の人達で支えられているかを、教えられました。

あるメンバーはずっと、ほとんど一人でゴミと皿洗いを担当してもらい、もちろん他のメンバーももっていたのだけれども、黙々のその仕事に徹していただいたし、ずっと裏方を、廻っておられた委員長や、駐車場の整理をやっていたり、受付でずっとがんばっていただいたり、自前でアンプや音響を持ってきていただき、前日から泊まって用意をしていただいたり、まして各クラブでは自前の食材で料理し、誰の言葉も期待せずさり気なく頑張っていたかよくわかりました。【感謝】です。

参加者：立山・中原・中原妹・中原コ・野田・野田妹・野田コ・高山・桂・岩本・牧野・大西・星野・辻中・河合

4月Yサ例会報告

4月21日(木) 京都ガーデンパレスホテル
Yサ委員長 岩本 敬子

4/21(木)例会は、Yサ強化月間でもあり、以前から計画をしてきました。

今出川Yに関連できるものと、前中田主事、現辻中主事の協力を得て、今出川Yの講師でもあられます、レクレーションのプロ清水津利江先生をお迎えすることができました。

1時間という先生にとっては、短い講習時間ではありましたが、私たちは、いつの間にか清水先生の、あまりにも熱心な遊びの中に吸い込まれていきました。まずは「手のひらを太陽に」の手話による歌から始まり、次は2組になって、じゃんけん。負けたら肩たたきをする。そしてもう1回。次は相手にたたいてもらおうと思って丁寧にはやっていたが、私は2度負けて、たたく側のみでした。手が疲れた。そして、みかんの花を歌いながらの手遊び。

そして、4人グループでの対抗スキヤキゲーム。食事が絡むと、お年寄りも必死になるとかで、私たちも、必死で汗をかきながら楽しい時間を過ごす事ができました。

今の世の中、コミュニケーションをとることの難しさを言われていますが、こういう遊びから触れ合うことによって、笑いが出てくるし、楽しい人間関係が作れるのではないかと思います。YMCA はいつも身体・精神・知性の均整のとれた全人的成長を目指しています。バランスの取れた生活を送るヒントにはなったのではないのでしょうか？

本当に忙しい中来ていただき、清水先生、高橋さんに感謝いたします。先生達はYMCAの学園祭でもクラフトコーナーを出しておられます。また、お会いできるはずですので、学園祭も是非皆さんご参加お願いします。

出席者：メン21名・メネット6名・ゲスト3名



IBC 台北ダウタウンクラブ 30周年・韓国鍾路クラブ 25周年・京都ウエストクラブ 25周年合同祝賀記念会 & 台湾観光 報告

4月30日(土)～5月2日(月) 台湾・台北において、表記のIBC記念式典が開催され、ウエストクラブからはメネット・コメットを含む17名が訪台しました。1日目は式典参加、2～3日目は台湾観光を楽しみました。

歓迎の挨拶

台北ダウタウンクラブ CP 邱 輝雄

敬愛するワイズメンズクラブの皆さま

ようこそお出で下さいました。ただ今台北城中社を代表して、我が社創立三十周年と、京都西社及び韓国Jong-Ro社創立二十五周年式典にご出席なされましたことに、心からの敬意と歓迎の意を述べさせていただきます。

皆さまご存知のように、インターナショナル・ワイズメンズクラブは、1922年米国オハイオ州のトレド市でポール・ウィリアム・アレクサンダー氏により、愛と平和とそれに公正に満ちた社会への願いを込めて創立されました。本日私たちは「愛、平和、友情」の名の下に一堂に会して創立記念日を祝賀し、そして永久(とわ)なる世界平和を祈り、偉大な人類愛を祝福し、そして諸民族間の永続的友好を大声で訴えるものであります。

三十年この方、私たちは持てる限りの活力、時間、及び能力を捧げて、町や地方で、或いはまた自分の国や国際間で、至るところに愛、平和、及び友好の足跡を残してまいりました。以下の通り、例を挙げて紹介させていただきます。

一番目に、最近大津波の被害にあった南アジアの国々に逸早く義捐金をお贈りしました。

二番目に、中国のミサイルに対抗し、私たちのホームランドを防衛するために、全社を挙げて、「手と手、心と心をつないで」台湾を守る人のチェーン運動に参加しました。

三番目は、1999年9月21日の台湾中部大地震、また日本の阪神及び新潟地震に急遽義捐金をお贈りして、被災者の方々に援助しました。

四番目は、台湾の東海に浮かぶ小島蘭嶼の住民たちの、居住環境改善及び幼児教育促進プロジェクトにスポンサーとして賛助しました。

五番目は、私たちは頻りに山や海辺の清浄活動を行って、宇宙で唯一の地球の環境保全に努力してまいりました。

この度創立三十周年を祝うため、日本京都西社と韓国Jong-Ro社の皆さまと、淡水真理大学玄関入口と3Hブルバードで30プラス2本の吉野桜を植え、また記念碑を建立することになりました。これ等は平和、愛、友情の桜であり、そして台北城中社30周年、日本京都西社と韓国Jong-Ro社25周年を永遠に記念するモニュメントでもあります。

最後に、本日ご出席の皆さまのご健康とご多幸をお祈りして、私の挨拶を終わらせていただきます。有難うございました。

お祝いの言葉

京都ウエストクラブ 会長 立山 隆一

台北ダウタウンクラブが創立30周年を、併せて、ソウル鍾路クラブの創立25周年を迎え、京都ウエストクラブのメンバー・メネットを代表して心からお祝い申し上げます。

両クラブの過去30年間・25年間にわたる貴重な活動に皆様方がたゆまなく献身的に努力された事に対して敬意を表します。

台北ダウタウンクラブ、ソウル鍾路クラブそして京都ウエストクラブが創立30周年、25周年を一緒に迎えられた事を心より喜んでおります。

そして、今回の3クラブ合同創立記念例会を基に今まで以上に3クラブの友好の絆が強くなることを心より願っております。

最後になりましたが今後の台北ダウタウンクラブ、ソウル鍾路クラブの益々のご発展とご活躍そしてメンバー全員のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



初めてのIBC。

メネット会長 立山 益子

初めて訪れた台湾なのに、なぜか懐かしい雰囲気、台北ダウタウンのメネットさんたちのやさしい笑顔に、私も笑顔でお返ししました。そして祝賀会で、私は生まれて初めて、ファッションショーに出演しました。出演するの知っていたら、ウォーキングぐらい練習していたのに・・・(笑)。言葉は全然わからなかったのですが、メネットさんたちの心からの歓迎の様子やパフォーマンスにびっくりしたり、感激したり。日舞「さくらさくら」や「白扇」も台湾の方々に喜んでもらえたようで、3日間の短い旅でしたが、行ってみたいとわからない体験や感動を味わえました。お留守番の義母や子ども達に大感謝です。



第1日目報告

地域奉仕委員 大西 光子

晴天の下、関空から一路17名が台北へ飛び立ちました。早朝の京都駅では出発前ハプニングもありましたが、森田ワイズに引率され予定どおりの最終メンバーが参加しました。

ワイズ9名(森田、立山、中原、松本、桂、岩本、河合、牧野、大西)メネット4名(森田、立山、松本、野田)コメット4名(立山郁人、中原敏貴、野田和弘、桂奈津)です。

空港では台北城中クラブのメンバーの出迎えを受けて、早速バスで会場となる淡水の真理大学へ案内していただきました。私ははじめての台北でバス中から看板を見てはコンビニ(便利商店)が多いな、難しい漢字でも意味はだいたい理解できるなと漢字文化に感心していました。キャンパスに着くとすぐ着替え、会場へ向かいました。(立山メネットは着物です。)機内食を食べたのですが、現地の方がお弁当も用意してくださっていたのでまた食べました。(ダイエットは当然無理なようです。)

緑豊かな美しい大学の大礼拝堂で三クラブ合同祝賀式典がパイプオルガン(管風琴)の音色とともに、キャンドルサービス(台・日・韓)で厳かに始まりました。日本は中原次期会長です。

開会宣言は、三クラブ会長、邱輝雄会長の「愛、平和、友情」の名の下に一堂に会しての力強い友好の歓迎挨拶ではじまりました。三十周年のクラブ活動報告では最近のアジア大津波や台湾中部地震、日本の阪神、新潟地震等被災者へ義捐金活動、居住環境改善、幼児教育促進、海山の清浄活動等、幅広く活動されていることが語られました。

三クラブ会長の友好的挨拶は各国の言葉と北京語等で語られ立山会長も大役を果たされました。もう少し語学を勉強する必要があると感じたのは私だけでしょうか？

その後、各クラブのチャーターメンバーの表彰やスマイルエンゼル(好禮微笑小天使)の表彰があり、日本の古参社員は森田、高野、笹山、鈴木ワイズ4名です。森田ワイズだけが壇上で、みんなも一緒にできたらよかったと思いました。

孫前会長の息子さんのピアノ演奏やメンバーの娘さんの演舞、メンバーのコーラス、小天使の演奏等沢山の参加でした。三兄弟クラブのパワーポイントでは、途中夜更かしが過ぎたのか夢うつつで失礼した私です。(前々日になってから、何か小さな贈り物を用意したらとお聞きしてあわてて作っていたためです。)

閉会の辞の後は記念撮影と並木道での植樹・立碑の除幕式と続きました。これで第一部の祝賀式典は終了。

いよいよお待ちかねの第二部祝賀会(大学食堂) 劉さんの司会で楽しいパーティの始まりです。会場は美しく装飾され、私達には可愛い花のバスケットのプレゼント、お花は台北の市場で一番めでたい場にマッチした花を選んでくださり、メネットさん全員で前日から会場の飾り付けをされたそうです。

歓迎ショーは三クラブメネット会長による各国民族衣装の登場です。着物、チマチョゴリ、チャイナドレス、それぞれに大変美しく歴史のなかで女性に引き継がれてきたすばらしいものです。ひときわ大きな拍手です。

台北城中クラブメネットによるファッションショーは、テーマが設けられて赤の衣装「愛」、緑の衣装「平和」、黄色の衣装「友情」とそれぞれを表現されました。一枚の布でハサミをつかわず身に着けられ、髪や手や腕の花飾りともよくマッチし、世界に一つだけのファッションとなっていました。メネット主任委員謝鳴鳳さんの日本語によるメッセージにはみなさんの熱烈歓迎と「平和」、「友情」、「愛」の想いが込められていました。やさしい女性ならではの細やかな工夫と努力に圧倒されました。

次から次ぎと出される沢山のお料理に舌鼓を打つ間もなく、立山メネットの日舞「さくらさくら」等と我々の盆ダンス「炭坑節」の出番です。法被に「おかめやひょっとこ、アトム等」のお面を着けて、腰には団扇で威勢良く夢中で踊りました。いつしかみんなも踊りの輪に入ってくださいり輪も大きくなり成功です。

首爾鍾路クラブの歌や城中クラブの娘さん達の演武、カラオケ等々があり飲めや歌えの大宴会、時間のたつのも忘れみんな浦島太郎状態でした。最後に三十周年記念の大きなケーキに三クラブ会長が入刀して終わりました。あの大きなケーキはどうなったのかな...甘いもの大好きな私はちょっぴり気になりました。有名レストランのシェフが出張して料理を作ってください、サービスのウエイターは学生さん達とのこと、陰でこの大会を支援してくださった方々、台北城中クラブのみなさんほんとうに御協力ありがとうございました。謝辞。一日目担当新米大豆記者大西でした。



第2日目報告

コメント 中原 敏貴

台湾2日目でございます。ホテルで朝食を取った後、一路烏来(ウーライ)温泉へ。かなり険しい山岳地帯で、道端のそこかしこに鋭い火山質の岩が突き出ています。ほぼ垂直にそ

びえる山肌まで随分距離があるのに、首を上に向けなければテッペンが見えません。大変美しい溶岩色の山や碧色の川と、放り出すように食べ物を売る商店街の活気とのコントラストにそそられて、デジカメのシャッターを切り倒すのでした。ちなみに気温が36。気分もカラダも真夏でございます。山登りの後はトロッコで山下り。その後また温泉まで山登り。マダム・ヤンの体力に脱帽。

この日の晩も3国クラブ合同のパーティーが開かれておりまして、一回の食事で20回ぐらい乾杯をしながら、インスタントではない(!)フカヒレスープ等々を美味しく頂きました。台湾クラブのメンバーさんに、互いに腕を組みながら杯を空けるという独特のスタイルで乾杯をしていただきまして、ズーと言わなかった(コップほぼ空けた)ところ20分後にグロッキーな若造が一人。たかだかビールとワイン1杯づつで...情けない。ご心配をおかけいたしました皆様、どうもすいませんでした。



第3日目報告

地域奉仕委員長 松本 忠正

3日目、今日は台北の最終日である。

昨夜のダウンタウン・チョン口の合同カラオケの疲れが少し残る朝である。宿泊のガラホテル1Fのレストランで7時15分朝食、バイキングではあるが和洋色々のご馳走をいただいて、8時半、ダウンタウン会長の邸さん夫婦、次期会長の林さんが迎いのバスに乗り込み、一番目の観光目的である101ビルに直行。世界一の超高層ビルの迫力を目の前に圧巻である。休館日にもかかわらずビルの内部を一部見学させて頂き感謝である。

次の観光は有名な忠烈祠である。抗日戦争や共産党軍との内戦によって国民党政府のために戦死した約33万人の将兵などの霊を祀り、1969年に創建された廟、美しい色彩の中国宮殿式の建物が本殿で、北京の故宮の大和殿を模して建てられたという廟は、軍の管理下に置かれており、毎日一時間に一度正門の衛兵の交替式がある。一糸乱れぬその動きは、観光客の写真撮影の対象となっている。衛兵の微動だにせずりりしい姿は、感動せずにはいられなかった。

三つ目の観光は、帰国の時間も迫り、買い物である。台湾手工芸業中華芝館、手工芸を中心とした公の商店で、商品は地下1階、地上3階に数多く展示され、メンバーそれぞれにお土産や趣味の品々を楽しくショッピングを済ませ、一路空港へ。ダウンタウンの皆様には空港ゲートまで温かい見送りをいただき、別れを惜しみながら機上の人となりました。

参加者: 立山・立山メネット・立山郁人コメント・森田・森田メネット・松本・松本メネット・野田メネット・野田和弘コメント・中原・中原敏貴コメント・桂・桂奈津コメント・岩本・大西・牧野・河合